

郷土の偉人積宗演没100年 町の文化人遺産を次の世代へ



積宗演だより

10月顕彰記念事業向け準備本格化

南方仏教修行記「西遊日記」から

積宗演の偉業学ぶ講演会開催



宗教学者 正木晃先生による講演



町内外から多くの方が参加、熱心に聴講しました

積宗演を顕彰する会（伊藤彰会長）は昨年11月、高浜町文化会館で「西遊日記から見る積宗演」をテーマに講演会を開催しました。講師に宗教学者である正木晃先生を迎え明治時代、単身で仏教発祥地に近いスリランカにわたり、苦難の中での修業生活を記した「西遊日記」をもとに積宗演の禅への思いについて講演。講演には百二十名の町民が参加し、積宗演の偉業を再確認しました。町内では今年10月の顕彰式、記念式典に向け町あげた顕彰活動が始まっています。

講演では「禅」が国内だけでなく、世界で関心を集めているとし、その中で積宗演が果たした役割を分かりやすく話されました。講演要旨は次のとおりです。

第3号

発行/積宗演を顕彰する会
会長/伊藤 彰
福井県大飯郡高浜町
蘭部 49-16 (松和塾)
電話/0770-72-1353

賀正

あけましておめでとうございます。今年10月に顕彰記念事業を行います。町民の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いたします。
積宗演を顕彰する会 会員一同

積宗演は慶応義塾大学卒業後、南方仏教を学ぶためスリランカへ渡航。渡航費用は山岡鉄舟や福沢諭吉らの募金で賄われました。特にドイツの貨物船で高額の船賃を支払っていながら、粗末な食事やみじめな処遇を受けた体験が日本の将来を考える機会となります。

西遊日記はこのスリランカ等南方での修業をつづつたものです。宗演は明治20年3月8日、横浜港を出港し月末にスリランカに到着。カタルハ村にあるパンサラに入寮し修業に入ります。異国での苦難な修業を終え、帰りにはタイ国や上

海に上陸、見聞を広めました。明治22年10月に帰国。足かけ3年にわたる修業を終えます。当時としては革新的な禅僧の西遊といわれています。帰国時、船中の蚊の大量に襲われながらの座禅での体験は、今も語り続けられています。

「生誕地高浜」に誇りを

宗演は戦前、最も有名な禅僧であり、明治以降、最も影響力のあった人で、最大の功績は禅を「ZEN」として世界に広めたことです。英訳した鈴木大拙が世界で有名な人となりましたが、師匠

は宗演で夏目漱石や伊藤左千夫等近代文学への影響力も大きく、また軍人、政財界人とも関わっています。しかし戦後の日本でもあまり知られていないのです。

正木先生は「大きな功績を残した偉大な積宗演の生誕地に住む皆さんも誇りに思ってください。21世紀の積宗演を」と講演を締められました。

◆積宗演関連書籍貸出し「西遊日記」など

積宗演を顕彰する会では積宗演を知っていただくため古本十一冊、新刊五冊の本を購入しました。

- ① 積宗演伝（井上禪定著）
- ② 西遊日記（正木晃現代語訳）
- ③ 明治の禅匠（禅文化研究所）
- ④ 禅の名僧に学ぶ（横田南嶺著）等、希望者は事務局（松和塾）までご連絡ください。

町内4ヶ所に顕彰看板

～町民の理解を呼びかけ～



九月から十月にかけて高浜駅前交差点の看板に幕末明治福井一五〇年博のP

Rとして積宗演の看板が設置されました。この設置で町内外への周知がされたところですが、この流れに乗って、会でも町内4ヶ所、和田・高浜・青郷の国道沿線に各1枚、街中心部に1m×2mの周知看板を設置、記念事業の理解協力を呼びかけます。この看板は、今年10月の顕彰式まで約一年間設置されます。

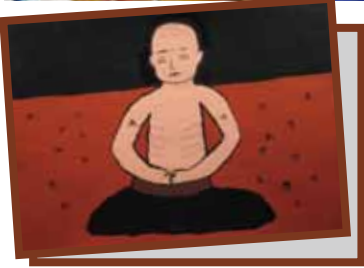
積宗演の偉業を知ろう

高浜中美術部制作の紙芝居

「和田小で学習会開催」



大型スクリーンで紙芝居の読み聞かせ



紙芝居は生涯を、全17シーンで絵、語り文とも小学生向けに分かりました。

「宗演さんでどんな人なの」「どんなことをしたの」。

高浜が生んだ禅の名僧積宗演の偉業を学ぼう、と11月和田小学校の6年生が紙芝居を使って学習しました。この紙芝居、高浜中学校美術部の生徒が制作したものです。

「HP開設します」 クリックしてね

顕彰する会の活動を広く知っていただく為に、ホームページを開設します。幸いに会員の尽力により、(株)カリーズデザインの家野さんにお願ひすることになりました。

ホームページでは、会の目的や活動、積宗演とその人脈、ゆかりのスポット、紙芝居などを見ることが出来ます。近くアップしますので、是非アクセスしてみてください。

● 顕彰募金のお願ひ
町民皆様の志を！
会では顕彰活動にかかる経費を、趣旨にご賛同される方の善意で賄いたく募金を呼びかけています。趣意書は顕彰する会事務局(松和塾)にあります。

田宗元、積宗演の凄いこと(慶應義塾での英語勉強、スリランカでの修行、仏教・禅を広めるための世界一周)の話をして、新しいことにどんな挑戦し夢をかえて下さいと締めくくりました。

「積宗演について初めて知り勉強になりました」、「家が忠魂碑に近いけど知りませんでした」等々の感想をもらい、今日家に帰って「積宗演の話をして下さい」とお願ひし学習会を終わりました。会では今後小中学生、社会人を対象とした学習会を順次開催する予定です。

易く仕上げられ、大塚副会長が読み聞かせを行いました。有名なエピソードである「建仁寺廊下での昼寝」と「スリランカから帰りの船上での蚊の群に襲われながらの座禅」も入っており、全員熱心に聞き入っていました。

紙芝居の後、伊藤会長が積宗演筆による和田の忠魂碑、和田出身の幼友達三原

町民や周辺市町に理解、参加を呼びかけていきます。



私と積宗演

シリーズ②
積宗演を顕彰する会副会長
坪内 勝

我が家には、積宗演の書による扁額があります。宗演独特の書体で、『晴耕雨読』とあり、私は子どもの頃からこの額を見上げながら育ちました。晴れた日には田畑を耕し雨の日には家で読書すること、自然のままに生きる様の意味です。

宗演自伝によると、子どものころは書物を読むことが大好きで、夜は暗いランプの灯りの下で兄が得意の「三国志」を声を上げて読む、それを弟宗演が一生懸命に聞き入る。いつも書物をはなさない勉強が大好きな少年だったよう

す。我が家にある「晴耕雨読」は宗演が高浜に帰郷の折に、幼少時、兄と語らいだ日々懐かしい思いをはせながら、三国志に出てくる英雄孔明の営みを書かれた言葉ではないかと私なりに解釈し、何か親しみを覚えるものです。

明治末期に宗演は、佐伎治神社の社号碑や和田忠魂碑の揮毫をはじめ数々の足跡を郷土に残されていますが、積宗演とはどんな人物なのか、その偉業についてはあまり知られていないようです。私は三年ほど前から町内の仲間たちと高浜町の歴史を勉強する中で、郷土出身の積宗演はすごい偉大な人物であることを知りました。私達はこのことを広く町民の皆様に啓蒙し、次世代にも語り継いでいけるように「積宗演を顕彰する会」を立ち上げ、活動いたしてまいります。皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。

「顕彰する会」 町内イベントでPRを行う」

顕彰する会では積宗演の偉業を広く、町民に理解してもらおう、と各イベントでの街頭PRに取り組んでいます。昨年開催された産業まつり、フグ祭り、高浜町文化祭などで小型パンフレットを配布しました。今年も10月の記念事業に向け



文化祭参加者にPR

「積宗演ゆかりの地紹介」

若宮の丹後街道沿いに生誕碑



積宗演ゆかりの地を歩いてみませんか。町内にはいくつかのゆかりの場所があります。丹後街道沿い若宮区の生誕地には、50年前の碑が建立されています。